

夏山トレを兼ねて日本二位の峰に立とう
北岳

実施日 2015年7月25日(土)～26日(日)
 天候 晴れ
 リーダー 涌井 良明
 参加者 石附智江、中村友子、伊藤久雄、宇野輝代、天野拓郎、瀧澤きよの、石附恵理子、渡邊悦子、宮崎敏男 計10名
 費用 JR7,220円(新宿起算^特)
 ④(甲府⇄広河原)4,100円
 テント500円・小屋8200円
 タイム 7/25 甲府(8:30~9:00)広河原(10:55~11:15)休・1800近(12:00~05)休2100近(13:00~10)白根御池小屋(14:00)テントor小屋泊
 7/26 御池小屋(5:00)樺沢二俣(5:30~35)休・樺沢最上部(6:15~22)休・2685近(7:00~10)八本歯コル(7:45)吊尾根分岐(8:45~50)北岳(9:16~45)肩ノ小屋(10:25~35)御池小屋(12:00~12:46)広河原(14:50~15:10)甲府(17:05)

両日共に真夏の快晴に恵まれ、日本二位の北岳に立ち、360度の展望もしっかりと記憶に残すことも出来て、印象にも記憶にも残る山行になったとしたら幸いです。

7/25 甲府発広河原行の④は4台連ねて広河原に向かう。

広河原BTで軽くエネルギー補給をしてから今日の行程の白根御池小屋を目指す。野呂川に架かる吊り橋を渡り、広河原山荘脇を抜けて登山道に入る。

しばらくで大樺沢へ向かう分岐と分かれて、登り始める。樹林帯の登りはさすがに多くの登山者が通うためしっかり踏まれている、時々木梯子も交えて急登になってくる。特に歩きにくくはないもののやはり低山の登りとは一味二味違う？

ほぼ同じ様な傾斜の急登をゆっくりと



登る。急登が一段落すると等高線に沿うような道になり、水量たっぷりの沢を橋で渡り想定時間よりだいぶ早めに白根御池小屋に着いた。

今夜は小屋、テントと分かれて泊まることになるが、テント組は静かな池畔に設営する。その後は小屋前でいつもの午餐会？を楽しむ、バットレスや早川尾根を眺めつつ賑やかにひと時を過ごす。



テント班の夕食準備に伴って解散、テント班の今夜のメニューはカツ丼・フカヒレスープ・海藻サラダ・漬物、それにデザートと何とも豪華で盛り沢山である、小屋食に負けてない。

明日の5時出発に備えて早めにシュラフ(カバー)にもぐり込む。

7/26 明け方前に寒さで目が覚める、ダウンの上にレインウェアを着込み二度寝を決め込む、4時前には女性テントで朝食準備の音が聞こえている、食当を感謝。短時間で仕上がった朝食だが、食べ易く元気の素の注入ができた。

小屋泊も合流して、5時予定通りに2日目の長丁場の歩きが始まる。

大樺沢二俣へ30分程山腹のトラバース気味には辿る、二俣で一気に視界が開け、明けたばかりの鳳凰三山が穏やかだ、また大分少なくなったものの南ア最大の雪渓を持つ大樺沢がこれから向かう八本歯の稜線に一気に突き上げている。

此処から標高差700弱の急登が今日の核心部だろう。

すっかり夏道を辿れるようになって大樺沢の登りをじっくりと登っていく。道脇には花の姿も多く辛い登りも楽しませてくれる。背後の鳳凰三山の奥に八ヶ岳が姿を見せるようになり、地蔵岳のオベリスクもその尖がりを見せるようになってくる。沢筋が終わると木梯子が続く登りになる、一気に高度は稼げるが慎重に登る、右方にバットレスが見渡せるように



なる。時間も早いせい今はコールの声も聞こえてこない。数年前(2010年)に大規模崩落でマッチ箱消えたとも聞いたが尾根屋には良く分からないが、相変わらずの巨大岩壁の迫力を感じる。



梯子を登りつないで左方からにポーコン沢ノ頭からの稜線が近づき稜線上の八本歯のコルに着く。白峰三山の巨大な山並みが目に飛び込んでくる。何度見ても思わず声が出るような眺めである。

しばし眺望を楽しんで、白根の主稜線を目指して右に上って行くが、傾斜も緩み3000mの高みを歩く道になる、木梯子や岩道を登って高さを増していく。

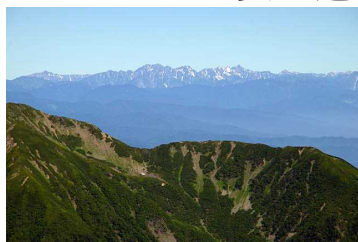
北岳山荘へのトラバース道を分けて吊尾根分岐をめがけて直上していく、辺りに花の姿も絶好調で写真撮りてしばしば足を止めさせらる。

お花畑の道を上り詰めると白峰三山主稜線の吊尾根分岐に着く。初めて西側からの風を受けるが思いの外冷たく、ウィンドブレーカーを羽織る。右に山頂を目指して稜線の左側(西側)に付けられた道を登る、3000mオーバーながらこの辺りでも高山の花々が健気に迎えてくれる。勿論眺望も素晴らしいものがある、近くには南アの女王と言われる仙丈ヶ岳、雪の如くの白砂を纏った甲斐駒ヶ岳、始め何と言っても間ノ岳～農鳥岳と連なる白峰三山の山稜のうねりが本当に美しい山岳美を見せてくれている。更に遠望も中央ア、御嶽、



乗鞍岳、そして屏風のように居並ぶ北ア、何と贅沢なご褒美だろう。いつも思うがこの瞬間、この場所に居られることに感謝したい気持である。

ハイマツと岩(屑)の道を登り切り3193mの山頂に着く。日本には富士山を除いて此処より高い地上は存在しない。個人的にはまた来てしまいました、と



引いた端正な姿を見せてくれている。冷たい風を避けて東寄り、軽目の昼食を摂り、集合写真も撮り、名残惜しいが山頂を辞して下山になる。山頂を通過するように北方に進み高度を下げて行く、視線の先の肩ノ小屋～小太郎山、甲斐駒その奥の八ヶ岳と続く山並も何とも素晴らしい眺望だ。どっちを見てもこのような眺望を与えてくれる今日の天気感謝である。

頂稜部を下り切って肩ノ小屋で一休後、御池小屋に向かって下山を続ける。小太郎山への分岐から右へ草すべりに入る、下り始めはお花畑が広がる道で、楽しめる。草すべり途中からテント撤収要員が一足早めに御池まで急ぎ下ることにする。12時前後に御池に戻り、テントの整理・撤収を行い、冷たい南アルプスの天然水で喉を潤して。昨日の登った広河原への道を下る。改めて昨日はこんなに急な登りだったのかなどと思いつつゆっくりと下る。登り登山者との行き違いも頻繁にあったが、ほぼ想定通りの時間に広河原

いったところだが、また来られたことに感謝したい頂である。



掛け値なしの360度の眺望が味わえる山頂でもある。また何時も乍らここからの富士山は本当に美しい、中程に薄くベールを

引いた端正な姿を見せてくれている。

冷たい風を避けて東寄り、軽目の昼食を摂り、集合写真も撮り、名残惜しいが山頂を辞して下山になる。

山頂を通過するように北方に進み高度を下げて行く、視線の先の肩ノ小屋～小太郎山、甲斐駒その奥の八ヶ岳と続く山並も何とも素晴らしい眺望だ。どっちを見てもこのような眺望を与えてくれる今日の天気感謝である。

頂稜部を下り切って肩ノ小屋で一休後、御池小屋に向かって下山を続ける。小太郎山への分岐から右へ草すべりに入る、下り



り始めはお花畑が広がる道で、楽しめる。草すべり途中からテント撤収要員が一足早めに御池まで急ぎ下ることにする。12時前後に御池に戻り、テントの整理・撤収を行い、冷たい南アルプスの天然水で喉を潤して。昨日の登った広河原への道を下る。改めて昨日はこんなに急な登りだったのかなどと思いつつゆっくりと下る。登り登山者との行き違いも頻繁にあったが、ほぼ想定通りの時間に広河原



BTに下山できた。

待ち時間も短く、

車で甲府へ出て解散、直帰班、一杯班

それぞれ余韻を浸りつつ帰宅とな

った。皆さんお疲れ様でした。良き山・印象深い山でしたか？

また次回のこぶし会

山行で、新しい山との出会いやメンバーとの信頼感、各自の山岳レベルの向上など、共に山を介して日々の暮らしに潤いのあるものにしていけたら嬉しい限りですね。

（記&写真・涌井 良明）
（写真提供・伊藤 久雄）